

安藤 邑恵

岐阜医療科学大学 教授

介護老人保健施設における ICF の視点でのケアの実態と

ケア実践者の職務満足度との関連

研究目的: ICF は健康とそれに関係する領域を分類するものとして、2001 年に WHO で採択された。我々は ICF の視点から介護老人保護施設でのケア内容の実態を分析し、ケア・サービスと仕事の充実感との関連性を検討した。

研究方法: 対象者は設立 3 年以上、ベッド数 100 以上の介護老人保健施設の看護職 500 人、介護職 500 人に ICF の視点から作成した質問票調査を実施した。分析には SPSS ver. 16J を使用した。

研究結果: 649 名 (看護職 309 名、介護職 340 名) から有効回答を得た。高値を占めたのは、「心身機能・身体構造」は血管系・免疫系・呼吸器系に関連する視点であった。

「活動と参加」は、健康に直接関連するセルフケアの飲食の視点であった。「環境因子」はサービス・制度、態度の視点であった。職務満足度は、職業の誇り、業務内容、職員の相互関係が高かった。ICF の視点でのケアと職務環境 9 項目との相関関係は 1%水準で有意であった。本研究で作成した「ICF の視点でのケア内容尺度」は、ICF が提唱するその人を尊重した日常生活援助が提供できているかの指標として汎用できると考える。